

東洋史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
東洋古代中世史特論Ⅰ	秦国史の諸問題	2	渡邊 英幸	前期 金曜日 2講時
東洋古代中世史特論Ⅱ	古代中国王朝と周辺諸国・諸民族	2	渡邊 英幸	後期 金曜日 2講時
東洋古代中世史特論Ⅲ	魏晋南朝貴族制の諸問題	2	川合 安	前期 金曜日 4講時
東洋近世史特論Ⅰ	清朝のモンゴル支配、その歴史的 성격と意義	2	岡 洋樹	前期集中 その他 連講
東洋近世史特論Ⅱ	北朝隋唐貴族制の諸問題	2	川合 安	後期 金曜日 4講時
東洋史学研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 水曜日 5講時
東洋史学研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 水曜日 5講時
東洋史学研究演習Ⅲ	戦国秦漢簡牘資料研究Ⅰ	2	渡邊 英幸	前期 金曜日 5講時
東洋史学研究演習Ⅳ	戦国秦漢簡牘資料研究Ⅱ	2	渡邊 英幸	後期 金曜日 5講時

科目名：東洋古代中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Asia (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98824, 科目ナンバリング：LGH-HIS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：秦国史の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the History of Qin State

3. 授業の目的と概要： 秦始皇帝による中国統一は、東アジア史においてきわめて重要な位置を占める。だが統一時代は、実のところ秦の長期にわたる歴史のごく一部に過ぎず、またその実態も、歴史資料の不足により、これまで不明な点が多かった。ところが近年、新出土資料が増加したことにより、研究の進展が著しく、多くの事実が明らかにされつつある。この授業では、建国から統一、そして滅亡にいたる秦の歴史を通覧し、いくつかの重要な論点を取り上げ、研究上の到達点をあきらかにすることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The unification of China by the First Emperor (Qin Shi Huangdi) occupies a special place in the history of East Asia. Though the unification period of Qin Dynasty was actually only a small part of its long history, and much of its institutional and ideological situation had not been clear in the past due to a lack of historical date. However, in recent years, new historical documents and materials have been unearthed one after another, many studies have been published, which make it possible to clear many facts. In this course, we will provide the history of Qin state from its founding to its unification and destruction, and discuss some important issues, with the aim to clarify the status of current research.

5. 学習の到達目標：受講生は講義で示した基礎的な知識を身につけるとともに、論争点を把握し、自身の理解や解釈を提示できることを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal for students of this course is to acquire the basic knowledge presented in the lectures, to grasp the issues and as well as to be able to present their own interpretations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：(導入) 秦の歴史のスケール／春秋・戦国史と秦漢史／取り扱う史料

第2回：秦の起源論争と『史記』の起源伝承の批判

第3回：大堡子山遺跡の発見と秦の建国

第4回：秦の東方進出とその挫折

第5回：青銅器銘文が語る春秋秦の自己意識

第6回：秦孝公の登場と商君変法

第7回：商君変法の虚実

第8回：覇者から王者へ：恵文王から昭襄王へ

第9回：昭襄王の台頭と長平の戦い

第10回：ロウアイの乱前後

第11回：秦と「戎」

第12回：統一戦争と「皇帝」の出現

第13回：里耶秦簡と秦の郡県制

第14回：「更名扁書」が語る秦の統一

第15回：秦の滅亡

8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：配布した資料を精読し、参考文献も積極的に参照すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし。

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98825, 科目ナンバリング：LGH-HIS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代中国王朝と周辺諸国・諸民族
2. Course Title (授業題目)：The Relationships of Ancient Chinese Dynasties Formed with Neighboring Countries and Peoples
3. 授業の目的と概要：中国王朝は、東アジアの周辺諸国・諸民族との間で「冊封」や「朝貢」といった特殊な秩序を形成し、また国内外に住む多様な民族を統治してきた。この授業の前半では前近代の中国王朝の国際秩序に関する研究史を概観する。後半では秦漢時代に焦点を置き、中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係を歴史資料に即して具体的に考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In pre-modern East Asia, the Chinese Dynasty established distinctive orders such as the tributary system and the feudal system with neighboring countries, and ruled over ethnic groups in their territories. In the first half of this course, we will review studies on the order of Chinese dynasties in the pre-modern period. In the second half, we will focus on Qin-Han period, specifically examine the relationships that the Chinese dynasties formed with the neighboring countries and peoples.
5. 学習の到達目標：・前近代東アジアの国際秩序に関する基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
・戦国から秦漢時代の中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係について、歴史資料に即した形で理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purposes of this course are as follows:
 - 1) To acquire basic knowledge about the orders of the Chinese dynasties in pre-modern East Asia, and to be able to explain them in writing.
 - 2) To understand about the relationships formed by the Chinese dynasties with neighboring countries and peoples from Warring States period to the Qin-Han period, based on historical documents.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：(序論) 中国王朝の対外関係と華夷思想、冊封と朝貢・互市
 - 第2回：冊封と東アジア (1)：「冊封体制論」の提唱
 - 第3回：冊封と東アジア (2)：「冊封体制論」の展開
 - 第4回：冊封と東アジア (3)：「冊封体制論」の批判
 - 第5回：朝貢・互市と天朝体制論
 - 第6回：「冊封」と高句麗をめぐる歴史論争
 - 第7回：秦漢時代の「内臣・外臣」構造論
 - 第8回：「内臣・外臣」論への批判と秦代への遡及
 - 第9回：志賀島の「金印」をめぐる
 - 第10回：漢代国家構造論の現在
 - 第11回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (1)
 - 第12回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (2)
 - 第13回：戦国・秦漢時代の他国民・異民族の同化と編入
 - 第14回：漢初の諸侯王と「内／外」秩序
 - 第15回：漢初の異民族統治：胡家草場漢簡から
8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：配布した資料を精読し、参考文献も積極的に参照すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

なし。

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM15403, 科目ナンバリング：LGH-HIS603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：魏晋南朝貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Aristocratic System in the Wei, Jin, and Southern Dynasties

3. 授業の目的と概要：中国の魏晋南朝時代（220～589）は、貴族が政治・社会を主導する体制—貴族制の時代として知られる。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて中国史における魏晋南朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties (220-589) to help students understand the characteristics of the Wei, Jin, and Southern Dynasties time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：魏晋南朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（貴族、貴族制とは）
- 2、後漢時代の貴族
- 3、九品官人法の制定
- 4、州大中正の設置と貴族制の形成
- 5、西晋の貴族制
- 6、東晋貴族制の成立
- 7、東晋中期の貴族制
- 8、東晋貴族制の動揺
- 9、宋・斉時代の貴族制
- 10、宋・斉時代の名門貴族
- 11、宋・斉時代の新興貴族
- 12、梁・武帝の貴族制改革—十八班制
- 13、梁・武帝の貴族制改革—試經制度
- 14、陳代の新傾向
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各講時に資料を配布する。参考書は、川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社「講談社学術文庫」、2003 年）など。他は講義の中で紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし。

科目名：東洋近世史特論 I / Early Modern History in Asia (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LM98826, 科目ナンバリング：LGH-HIS604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝のモンゴル支配、その歴史的 성격と意義
2. Course Title (授業題目)：Qing dynasty's rule over Mongolia: its historical nature and significance
3. 授業の目的と概要：清朝は、「外藩」と称する独自の統治範疇を設けて安定的なモンゴル遊牧民統治を実現した。その制度的な諸要件は、「王公制度」「盟旗制度」と呼ばれるが、多くの点で清代に先立つ北元末期モンゴルの分節的な社会構造に基盤を置く諸制度を継承したものであると同時に、これを皇帝の専制的統治の下に組み込み、垂直的な統治構造を創出した。本講義では、このような清のモンゴル統治制度と政治的統治手法を概観しつつ、その歴史的意義を考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The Qing dynasty established special governing system called “wai fan” (Outer Mongol) and achieved stable rule over Mongolian nomadic society. This system consisted of “wang gung system” and “league and banner system”. Then many of its elements inherited the ruling system which was based on the segmental structure of Mongolian nomadic society of Later Yuan era. On the other hand, the Qing incorporated entire society into vertical system of rule. This lecture offers the overviews about the entire ruling system and the political way of rule of the Qing and consider its historical significance.
5. 学習の到達目標：清朝によるモンゴル支配の概要を習得するとともに、その歴史的意義をモンゴル史の文脈に即して理解することを目標とする。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to provide an overview of the Qing Dynasty's rule over Mongolia and to understand its historical significance in the context of Mongolian history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一講「イントロダクション：清代モンゴル史の課題」
清代モンゴル史に関する研究史を整理しつつ、検討・再検討されるべき課題を論じる。
 - 第二講「外藩とは何か」
清朝によるモンゴル支配の統治カテゴリーとしての外藩の特徴と清の帝国構造の中でのその位置づけを論じる。
 - 第三講「北元から清へ 1——内モンゴルの服属」
モンゴル諸集団が清朝に服属する過程を概観しつつ、マンジュのモンゴルに対する政策展開の特徴を考察する。第一回は内モンゴル諸集団の服属過程に焦点を当てる。
 - 第四講「北元から清へ 2——ハルハの服属」
内モンゴル服属後も独立を保っていた清朝とハルハ・モンゴルとの政治的関係を概観し、清朝入関後、順治・康熙期のモンゴル政策の展開を考察する。
 - 第五講「清朝によるハルハ支配強化政策」
乾隆帝がハルハモンゴルに対して展開した一連の支配強化策を通じて、清のモンゴル統治の手法の特徴について考察する。
 - 第六講「清のモンゴル統治制度：王公制度と盟旗制度」
清朝のモンゴル統治制度として知られる王公制度と盟旗制度の歴史的性質を、北元期との対比において考察する。
 - 第七講「統治制度と社会構造：オトク・バク」
清代モンゴルに存在したオトク・バク社会構成体としての特徴を論じ、盟旗制度との関係について考察する。
 - 第八講「ナツァグドルジの清代モンゴル社会構造理解」
清代モンゴル史に多大な業績を残したモンゴルの研究者 Sh. ナツァグドルジの社会構造理解を再検討し、その成果と問題点をまとめる。
 - 第九講「清代モンゴル史の歴史記述」
清朝政府及び清代モンゴルの知識人たちが残したモンゴルに関する歴史記述を取り上げ、その内容の特徴と清朝支配との関係を論じる。
 - 第十講「外藩統治の「中央ユーラシア的」性格」
清朝のモンゴル統治における「中央ユーラシア的」特徴について論じ、清朝の帝国統治の歴史的性質を考察する。
 - 第十一講「いわゆる「封禁政策」について」
清朝のモンゴル支配における基本政策とされてきた「封禁政策」理解の問題点を批判的に整理しつつ、その実態と意義を考察する。
 - 第十二講「清代モンゴルにおける人の移動：出稼ぎ」
清朝統治下のモンゴルに現れた新たな現象として、活発な人の越境移動を挙げることができる。ここではとくにモンゴル人の出稼ぎに焦点を当てて移動の問題を考察する。
 - 第十三講「清代モンゴルにおける人の移動：所属旗を知らぬ人々」
清代において越境移動が活性化する中で、長期にわたり所属旗を離れて生活したために所属旗を知らない人々に焦点を当て、清代モンゴルの人口流動現象の意義について考察する。
 - 第十四講「外藩統治における人身把握」
人の移動が活性化する中で、清朝当局が移動者に対していかなる管理を行おうとしたのか、その際にどのような困難に直面したのかを論じ、清のモンゴル支配の限界の所在を考察する。

第十五講「講義のまとめ」

モンゴル史上における清朝支配の歴史的意義について考察をまとめる。

8. 成績評価方法：

成績評価はレポートにより行う。

9. 教科書および参考書：

参考文献

岡洋樹「乾隆帝の対ハルハ政策とハルハの対応」『東洋学報』第73巻第1・2号、1992年

岡洋樹「第三代ジェヴツンダムバ・ホトクトの転生と乾隆帝の対ハルハ政策」『東方学』第83輯、1992年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京：東方書店、2007年

岡洋樹「北元から清へ—清朝の外藩統治形成の歴史的経緯」『東洋史研究』第81巻第1号、2022年

岡洋樹「大清国による歴史記述のモンゴル史的文脈」『北東アジア研究』別冊第3号、2017年

岡洋樹「清朝中期におけるモンゴル人の人口流動性に

10. 授業時間外学習：受講者は講義に先立って清朝のモンゴル統治の概要について、参考文献、あるいはインターネット上の情報によって予習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋近世史特論Ⅱ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM25403, 科目ナンバリング：LGH-HIS605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：北朝隋唐貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Aristocratic System in the Northern Dynasties, Sui and Tang

3. 授業の目的と概要：中国の北朝隋唐時代（439～907）における貴族制は、魏晋南朝の貴族制と異なり、皇帝権力主導の下に貴族の格付けが行われ、官僚制に組み込まれる傾向があり、隋唐時代には科挙制が成立するに至る。しかし、科挙制成立後も貴族は存続した。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせるを試みる。この試みを通じて、中国史における北朝隋唐時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang (439-907) to help students understand the characteristics of the Northern Dynasties, Sui and Tang time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：六朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（北朝隋唐時代の流れ）
- 2、五胡十六国時代の胡漢の貴族
- 3、北魏前期の胡漢の貴族
- 4、北魏・孝文帝の貴族制導入—官制改革
- 5、北魏・孝文帝の貴族制導入—姓族分定
- 6、北魏の九品中正制度
- 7、北魏後期の貴族制への反発
- 8、東魏・北齊の九品中正制度
- 9、西魏・北周の新貴族制
- 10、隋の貴族
- 11、隋の科挙制
- 12、唐・太宗の『貞観氏族志』
- 13、唐の貴族と科挙
- 14、牛・李の党争
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各時間に資料を配布する。参考書は、講義時間に紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし。

科目名：東洋史学研究演習 I / History in Asia(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM13507, 科目ナンバリング：LGH-HIS608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清官僚制度研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, Students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究 I ー (1)
3. 明清官僚制度研究 I ー (2)
4. 明清官僚制度研究 I ー (3)
5. 明清官僚制度研究 I ー (4)
6. 明清官僚制度研究 I ー (5)
7. 明清官僚制度研究 I ー (6)
8. 明清官僚制度研究 I ー (7)
9. 明清官僚制度研究 I ー (8)
10. 明清官僚制度研究 I ー (9)
11. 明清官僚制度研究 I ー (10)
12. 明清官僚制度研究 I ー (11)
13. 明清官僚制度研究 I ー (12)
14. 明清官僚制度研究 I ー (13)
15. 明清官僚制度研究 I ー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM23507, 科目ナンバリング：LGH-HIS609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清官僚制度研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：1学期に引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当を決めず、全員が毎回発表する(日本語訳でも訓読でもかまわない)。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In the second semester, following the first semester, through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業はオンラインと対面のハイブリッドによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 明清官僚制度研究Ⅱー(1)

3. 明清官僚制度研究Ⅱー(2)

4. 明清官僚制度研究Ⅱー(3)

5. 明清官僚制度研究Ⅱー(4)

6. 明清官僚制度研究Ⅱー(5)

7. 明清官僚制度研究Ⅱー(6)

8. 明清官僚制度研究Ⅱー(7)

9. 明清官僚制度研究Ⅱー(8)

10. 明清官僚制度研究Ⅱー(9)

11. 明清官僚制度研究Ⅱー(10)

12. 明清官僚制度研究Ⅱー(11)

13. 明清官僚制度研究Ⅱー(12)

14. 明清官僚制度研究Ⅱー(13)

15. 明清官僚制度研究Ⅱー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容(平常点)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98829, 科目ナンバリング：LGH-HIS610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：戦国秦漢簡牘資料研究 I
2. Course Title (授業題目)：Studies documents of bamboo and wooden slips from Warring States Period to Qin-Han Period
3. 授業の目的と概要：戦国秦の同時代史料であり、現在の中国古代史研究の基盤となった出土史料である雲夢睡虎地秦簡を会読する。中国・日本・欧米のこれまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを行う。積文・訓読を確定し、訳注稿として提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read documents of bamboo and wooden slips, such as the Yunmeng Shuihudi Qin bamboo slips, which was the contemporary historical sources of Qin in Warring States period and become the foundation for the current studies of ancient Chinese history. By this reading, get a handle on current research findings, and develop basic reading skills to understanding bamboo and wooden slips documents. In addition, we will attempt to review the results of previous studies in light of information from other documents that have been unearthed since then. Students will present a detailed translation and notes in Japanese.
5. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to develop the basic ability to accurately read and understand bamboo and wooden slips documents in light of information from the results of previous studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：ガイダンス。資料の解説／工具書・参考書の紹介
 - 第2回：睡虎地秦簡の内容と時代性
 - 第3回：「編年記(葉書)」講読(1)
 - 第4回：「編年記(葉書)」講読(2)
 - 第5回：「語書」講読(1) 第1—8 簡前半
 - 第6回：「語書」講読(2) 第1—8 簡後半
 - 第7回：「語書」講読(3) 第9—15 簡前半
 - 第8回：「語書」講読(4) 第9—15 簡後半
 - 第9回：「封診式」講読(1)「治獄」「訊獄」
 - 第10回：「封診式」講読(2)「有鞫」
 - 第11回：「封診式」講読(3)「封守」
 - 第12回：「封診式」講読(4)「封守」
 - 第13回：「封診式」講読(5)「覆」「盜自告」
 - 第14回：「封診式」講読(6)「口捕」「口口」
 - 第15回：「封診式」講読(7)「盜馬」「争牛」
8. 成績評価方法：

担当課題、および毎回の討論における質疑応答によって評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書：配布する。陳偉主編、彭浩・劉樂賢等撰『秦簡牘合集—積文注釈修訂本』(武漢大学出版社、2016年)のほか、数種の報告書・訳注を使用する。

参考書：授業中に紹介・配布する。
10. 授業時間外学習：担当者は訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めないので、担当者以外も予習のうえで出席すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：東洋史学研究演習IV／ History in Asia(Advanced Seminar)IV

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98830, 科目ナンバリング：LGH-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：戦国秦漢簡牘資料研究Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Studies documents of bamboo and wooden slips from Warring States Period to Qin-Han Period
3. 授業の目的と概要：引き続き、雲夢睡虎地秦簡を読解し、これまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを試みる。詳細な訳注稿を提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will continue to read the Shuihudi Qin documents, get a handle on current research findings, and develop basic reading skills to understanding bamboo and wooden slips documents. In addition, we will attempt to review the results of previous studies in light of information from other documents that have been unearthed since then. Students will present a detailed translation and notes in Japanese.
5. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to develop the basic ability to accurately read and understand bamboo and wooden slips documents in light of information from the results of previous studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：前期の総括と担当の割り振り
 - 第2回：「封診式」講読(1)「羣盜」
 - 第3回：「封診式」講読(2)「羣盜」
 - 第4回：「封診式」講読(3)「奪首」
 - 第5回：「封診式」講読(4)「□□」
 - 第6回：「封診式」講読(5)「告臣」
 - 第7回：「封診式」講読(6)「黥舂」
 - 第8回：「封診式」講読(7)「遷子」
 - 第9回：「封診式」講読(8)「告子」
 - 第10回：「封診式」講読(9)「癘」
 - 第11回：「封診式」講読(10)「賊死」前半
 - 第12回：「封診式」講読(11)「賊死」後半
 - 第13回：「封診式」講読(12)「經死」前半
 - 第14回：「封診式」講読(13)「經死」後半
 - 第15回：講義のまとめ
8. 成績評価方法：

担当課題、および毎回の討論における質疑応答によって評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書：配布する。陳偉主編、彭浩・劉樂賢等撰『秦簡牘合集—积文注积修訂本』(武漢大学出版社、2016年)のほか、数種の報告書・訳注を使用する。

参考書：授業中に紹介・配布する。
10. 授業時間外学習：担当者は訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めないので、担当者以外も予習のうえで出席すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

なし。